

令和5年度 地域における大学振興・若者雇用創出事業評価委員会
議事要旨

日時：令和5年12月15日（金）9：30～11：00

場所：中央合同庁舎8号館7階 ABCD会議室

1. 議事

（1）計画作成支援事業：地方公共団体Aの審議

- ・地方公共団体Aについて面接評価を行い、それを踏まえた委員の意見交換を行った。委員の主な意見は次のとおり。
- ・計画の達成に向けた体制を構築することが大前提である。また、様々な視点から計画の実現性を高めていただき、本当に実効可能性を持った計画となっているかを見極めるべき。
- ・産業創生の観点からしても、大学改革の観点からしても、良く考えられている。ただ、この計画において最もメリットを享受するのが中核となるサービスを提供するB社で、次が地方公共団体A。B社のサービスを利用する地域の企業が多数計画に参加しないのでは意味がない。
- ・まだ計画の骨格が構築できていない印象を受けた。地方公共団体Aならではの強みや独自性、実現可能性等の提示が足りないと感じたため、今後伴走支援して、計画の熟度を高めていく必要がある。全体としては前向きに考えたい。
- ・地域の有力企業などを巻き込むなどして、地域の産業振興を大前提にしないと、B社の成長とC大学の研究の発展に終わってしまう可能性がある。
- ・チャレンジとしては面白いものであり、予算額も著しく高いわけではないので、取り組んでみる価値はある。一方で、解決すべき問題もある。
- ・今回の申請でのデータ連携はなぜ上手くいくと考えるのか、深掘りしていただきたい。
- ・今回のデータ連携のペインポイント（コストをかけてでも解決したいこと）とゲインポイント（顧客が潜在的に求めていること）も深掘りしていただきたい。
- ・研究の基盤がある点は期待が持てる。本プロジェクトのターゲットとしている産業は中小企業が多く、生産性が低いことが想像できるため、DXを通じた改善の機会は豊富に存在すると判断できる。一方で、今回のプロジェクトは、B社の成長にしかならない危険性もあるので、今後の取組を注視していきたい。

以上の議論を踏まえ、地方公共団体Aの申請は、評価委員会において採択と評価された。

以上